

地方での地域活性化における起業の重要性と促進について

1240413 岡林 美結

指導教員 林 一夫

研究背景

日本全体で地方の人口減少や少子高齢化が進行している。この現状に危機感を抱き、地域貢献のために起業をしたいと考えた。都会と地方の起業家数を比較すると、都心部では多く、地方では少ない傾向が見られる。地方での起業増加には人材や資金などの経営資源の不足が課題となり、起業の障壁となっている可能性が高い。

研究目的

本研究は、地方での地域活性化における起業の重要性を明らかにし、地方での起業の促進方法の提案を目的とする。

研究方法

本研究では、地域活性化と起業の関係を解明するため、都道府県別の開業率、および起業家数と GDP の相関を比較する。さらに、都道府県別の法人企業と個人企業を合わせた全体企業における個人企業の割合（個人企業比率）と都道府県別 GDP を比較し、検討する。起業を増加させるメカニズムを明らかにするため、世界的に認められている起業エコシステムの事例から、あるべき姿を検討する。最後に、地方における起業が増加した海外と国内の事例を挙げ、地方における起業の促進方法を提案する。

分析結果

地方での地域活性化における起業の重要性が明らかになった。開業率と都道府県別 GDP には強い相関が見られず、一方で起業家数と都道府県別 GDP には強い相関が見られた。さらに、個人起業比率が高い都道府県では起業が主体であり、都道府県別 GDP が高い傾向が見られ、地域活性化において起業が重要な役割を果たすことが検証された。

地方での起業促進策として、起業エコシステムの構築が有効である。起業エコシステムの成功事例から、「人を集めるトリガーとなる組織」と、「コミュニティを形成するアクセラレーター」の役割が重要な要素であることが明らかになった。

考察・結論

地方の活性化には、起業が重要であり、そのためには起業エコシステムの構築が有効である。構成要素である起業家と大学・研究機関、行政、投資家を揃えるために、「人を集めるトリガーとなる組織」と、「コミュニティを形成するアクセラレーター」の役割が重要であるという結論が出た。

起業エコシステムが形成されていない高知県の改善策を考察した。第一次産業の中でも特に強みを持つ農業を中心とした起業エコシステムの提案を行った。地方において、「人を集めるトリガーとなる組織」と、「コミュニティを形成するアクセラレーター」が同じ組織であることが重要である。まず、トリガーとなる組織は、県が主体となり独立した核となる組織を設立する。この組織は、県外の農業大学や企業に対し、農業に関する実験や検証を行う際に、高知県の土地を活用する提案を行い、その後、県内に学部を設けるなどの展開を期待する。企業を集積させるためには、加工企業に魅力を持ってもらう農業地区にする必要があると考える。高知県は、輸出をする場合、物流コストがかかるといった課題があり、解決のためには、農作物を加工し、付加価値を高めて販売することが重要であると考えられる。このことから、農業関連の関係者や企業が集積しやすい環境を整備することを目指す。トリガーとなる組織は同時にアクセラレーターの役割も果たし、大学や研究機関、企業を巻き込んでコミュニティを形成し、農業クラスターを形成する。これにより、起業エコシステムが効果的に機能し、結果として起業の増加や雇用の創出が期待でき、地域の活性化に寄与する。